

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1159
施設名	ChaCha Children Todoroki
施設所在地	世田谷区等々力7-7-9
法人名	社会福祉法人 ChaCha Children & C

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ライトアワー（光を使って探求する部屋）を設け、子どもたちが主体となって創造性や探求心を高める。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
・ ChaChaChildrenでは創設当初より、海外での保育実践を学んでおり、2023年、2024年には当園からも海外研修に参加した。研修では、子どもの感覚や探求心を豊かに育む環境のあり方に触れ、当園でも子どもたちが活動できるよう「Light hour」の空間を設け、色・形・光・影と出会う時間の中で、子どもたちが「気付き」や「発見」「表現」が生まれる瞬間を大切にしている。また、子どもたち自身の感性や思いが広がっていくような日々を過ごしてもらいたいと考えている。

2. 活動スケジュール

A:環境を楽しむ、モノの使い方を育む。
B:子どもたちの「気付き」「言葉」から環境再構成する。
C:友だち同士のやりとりの中で新たな発見が生まれる。

A、B、Cを繰り返しながら子どもたちの想像を具体化していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
プロジェクター、スクリーン、iPhone、iPad、ライトテーブル、キューブ、OHP、土粘土、砂、貝殻、段ボール、枝、廃材、固形絵の具、筆、卵パック、はけ、カラーキューブブロック、スケルトンブロック、OHPフィルム、観葉植物、葉、廃材カップ、布、ライト、カラーフィルム、ざる等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【子どもたちの姿と広がる物語】

異年齢の関わり：年上の子が年下の子に使い方を教えたり、遊びを広げる。

遊びから物語へ：絵から始まり、木に家やブランコ、梅干しの実などを加えて物語に発展。

探求の深まり：色の重なり、影の出方、光の反射、粘土のつなぎ目の工夫など、素材との丁寧な関わり。

イメージの連続性：春の桜から秋の紅葉、光・水・色の変化をつなげて楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

【はじまりの言葉とイメージ】

子どもたちのつぶやき：「春になってきたね」「さくらがさいてるね」「森には川があって、川は海にたどり着く」

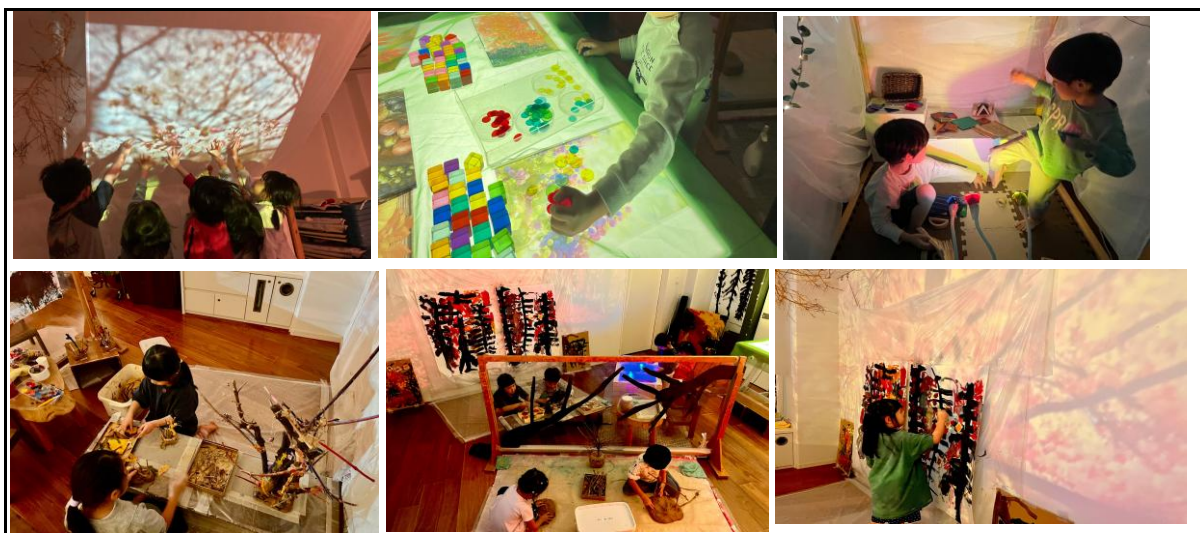
こうした言葉をきっかけに、桜→森→川→海→秋→紅葉→自分の木へと、子どもたちの関心が自然の流れとともに展開した。

【環境と素材の工夫】

「ライトアワー」活動：子どものリズムに合わせて時間帯を調整（2回転制導入）

レイアウトの工夫：プロジェクターや素材の配置を変更しながら子どものことばに応じた環境構成。

活動の継続性：異年齢の子どもがランダムに無理なく参加できる工夫。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

平面から立体に、小さいモノは手元で造り出す体験を経験することにより、よりその内容の印象を強くできたのではないかと考える。子どもたちの視野を大きく広げるために、大きい立体物を等身大で友だちと共に創造することができた。手段・方法を必要に応じて微細、粗大に自分の体を使うことをよって可能性を広げるきっかけになったのではなかと考える。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1159
施設名	ChaCha Children Todoroki
施設所在地	世田谷区等々力7-7-9
法人名	社会福祉法人 ChaCha Children & Co

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ライトアワー（光を使って探求する部屋）を設け、子どもたちが主体となって創造性や探求心を高める。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・ ChaChaChildrenでは創設当初より、海外での保育実践を学んでおり、2023年、2024年には当園からも海外研修に参加した。研修では、子どもの感覚や探求心を豊かに育む環境のあり方に触れ、当園でも子どもたちが活動できるよう「Light hour」の空間を設け、色・形・光・影と出会う時間の中で、子どもたちが「気付き」や「発見」「表現」が生まれる瞬間を大切にしている。また、子どもたち自身の感性や思いが広がっていくような日々を過ごしてもらいたいと考えている。

2. 活動スケジュール

A:環境を楽しむ、モノの使い方を育む。

B:子どもたちの「気付き」「表現」から環境を再構成する。

C:友だち同士のやりとりの中で新たな発見が生まれる。

A、B、Cを繰り返しながら子どもたちの想像を具体化していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

プロジェクター、スクリーン、iPhone、iPad、ライトテーブル、キューブ、OHP、土粘土、砂、貝殻、段ボール、枝、廃材、筆、卵パック、はけ、カラーキューブブロック、スケルトンブロック、OHPフィルム、観葉植物、葉、廃材カップ、布、ライト、カラーフィルム、ざる、黒白絵の具 等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

0歳児では、電車からタイヤへの興味が広がったことをきっかけに「まる」や「さんかく」「しかく」をテーマとしたライトアワーの空間で、影や光の不思議さ、モノのカタチ、動き、手触りなど光と様々なモノの関係性と変化について探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【活動の概要と子どもたちの姿】

ライトアワーでは、複数のコーナーを10分ずつ交代しながら回る形式を取り、計30分間の探究的な遊びを行った。自由度を保ちながらも、一定の時間で環境や素材を切り替えることで、子どもたちが集中して興味を示した。

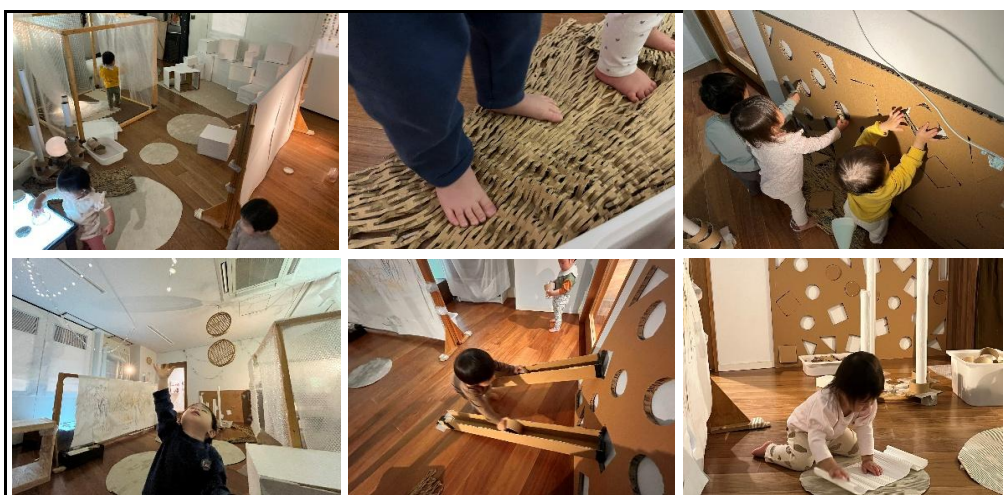
【環境と素材の工夫】

影のコーナーでは、影の動きや形に対する興味が深まり、指で差したりなぞっていた。家庭での経験ともリンクし、影に親しみを持っている子どももいた。光と筒を使ったコーナーでは、ホースや段ボール芯を通した光に気づき、類似性を自分で発見していた。緩衝材やキューブでは、触覚的な刺激や音への反応があり、足で踏みしめたり素材を叩いて音を楽しんでいた。緩衝材が顔にかかって笑う様子など、感触と身体反応の結びつきも感じられた。描画と壁投影では、光の投影に水や絵の具でなぞる行為が見られ、素材の順番（クレヨン→筆）や再現への興味があった。子ども同士で真似し合いながら遊びが広がった。型はめ・重ねるなどの行動が繰り返され、入れる・出す・合わせるといった認識が育まれている。物語性のある遊び（例：お店屋さんごっこ）や、他者の行動を見て学ぶ姿も見られ、社会的な広がりが感じられた。

【子どもの姿の特徴と学び】

子どもたちは、思い出しながら、新しい視点で素材や環境に関わっていたように感じる。

まずは音や感触を通して世界を感じ取り、その後に目や手を使って確かめるといった、五感を駆使した探究の流れがあった。素材の「形」「色」「音」「光」「重さ」といった特性を、試行錯誤しながら確かめていた。子ども同士の模倣や協働も随所に見られ、感覚的な遊びが関係性を深めるきっかけとなっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

0歳児の環境を構成するにあたり、ライトアワーの空間で「まる」と光と影を使い、あえて色を排除したことにより、子どもが色に引かれて手を伸ばすのではないと気づけた。はじめは“まる”だけにしたが、形に関係なく、子どもたちは音や感触に反応し、足で感じたり繰り返しを楽しんでいた。「まるはころがる」などの概念にもつながり、しかくの箱を使って「入る・入らない」を試す姿も見られた。素材が決めるのではなく、子どもの個性が遊び方を決めることを実感し、それぞれ異なる関わり方や表現がとても興味深く、やりがいを感じた。